

2021年05月25日 11面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

日本道路四国支店／新社屋（高松市）完成、竣工式開く／設計・施工は清水建設



細田武志四国支店長

日本道路四国支店が高松市の支店敷地で建設を進めていた新社屋が完成し、19日に竣工式が開かれた。式典には施主代表の澁谷博志執行役員中国支店長と細田武志四国支店長、設計・施工を手掛けた清水建設の竹中康博四国支店長らが出席。関係者が玉串をささげ、建物の無事完成を祝った。

建設場所は郷東町587の17（敷地948平方メートル）。旧社屋を取り壊して建設した。規模はRC造3階建て延べ822平方メートル（建築面積319平方メートル）。工期は2020年8月～21年4月。



施設計画では、これまで他支店の建て替えで得た経験をフィードバック。働きやすい環境づくりを徹底追求した。BCP（事業継続計画）拠点としての機能を確保するため、2～3階に業務フロアを配置。1階エントランスには四国产の自然素材を随所に採用し、四国の独自性を前面に打ち出した内装空間を実現した。

完成した日本道路四国支店新社屋 式典後、澁谷中国支店長が「清水建設のご尽力で立派な社屋が完成し感無量の思いだ。支店社員にはきれいな建物を大切に使い続け、さらなる業績向上に努めてほしい」と久松博三社長のメッセージを代読した。清水建設の竹中四国支店長は「無事故・無災害できょうを迎え、皆さんに建物の完成を喜んで頂き身に余る思いだ」と話した。

日本道路の細田四国支店長は「施設計画で要望に応じて頂いた清水建設の皆さまに心から感謝申し上げたい。われわれ一同、この立派な社屋で気持ちを新たに、日々の業務にまい進していきたい」と決意を述べた。

記事ID : 3202105251108

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます